

J A全農杯 チビリンピック2018 小学生8人制サッカー大会 in北海道 戦評

日 程 2018年4月8日

会 場 苫小牧市緑ヶ丘公園サッカー場

【準決勝Bコート】 (北海道コンサドーレ札幌 U-12B) 1-3 (エスピーダ旭川)

(1ピリオド 0-1
2ピリオド 1-0
3ピリオド 0-2)

【第1ピリオド】

北海道コンサドーレ札幌 U-12B (以下コンサ B) は、3-2-2、エスピーダ旭川 (以下エスピーダ) は 2-4-1 のフォーメーションでコンサ B のボールでキックオフ。序盤からエスピーダがハイプレッシャーをかけボールを奪いにいき、対するコンサ B は、ボールをしっかりと動かしプレッシャーをかいくぐりながらゲームを組み立てる。

2分、ファーストシュートはエスピーダ。10番がゴール付近でボールをカットし、シュートを狙うが GK 正面。5分、相手ボールを奪った、コンサ B の 11番がドリブルを仕掛けるもエスピーダ 11番にとめられる。待望の先制点は、エスピーダ。7分、10番からのスループスに反応した 9番が中央を抜け出し冷静にゴールへ流し込んだ。10分、先制点を奪われたコンサ B は、相手ボールへプレッシャーをかけにいくがなかなかボール奪えず苦しい展開。先制点を奪ったエスピーダが優位にゲームを運び 0-1 で第 1ピリオド終了。



【第2ピリオド】

立ち上がり、コンサ B が猛攻をしかけ激しく前に出てくると、5分、左サイドから 15番がドリブルでしかけ、こぼれたボールにすばやく反応した 4番が強烈なシュートを狙うも枠外へ。エスピーダは、コンサ B の攻撃を我慢しながら耐える時間が続くなか、トップの 4番にボールを集めカウンターを狙う。8分、コンサ B にセットプレーから



同点のチャンスがおとずれる。相手ゴール左手前から直接狙ったフリーキックが GK 頭上を越え、見事な軌道でゴールへと吸い込まれ、ついにコンサ B が同点に追いつく。終盤は、同点に追いつき、勢いが増したコンサ B のペースでゲームが進んだが、逆転ゴールを奪えず 1-0 で第 2ピリオド終了。

【第3ピリオド】

一進一退の好ゲームが続くなか、お互いに一步も譲らず同点でむかえた第 3ピリオドがキックオフ。先にチャンスをつくり出したのはエスピーダ。1分、相手 DF のクリアボールへ 10番が反応し、そのこぼれ球を拾った 9番が左サイドを切り崩し、ペナルティーエリアにドリブルで進入しシュートするも GK のファインセーブにあいゴールならず。今

度は、コンサ B にチャンス。2分、左コーナーキックからのこぼれ球をゴール中央付近にいた 7 番が強烈なシュート、惜しくもクロスバーを直撃し、はじかれたボールを GK がおさえゴールならず。4分、エスピーダに逆転の決定機が訪れる。右サイドで相手ボールをインターセプトした 10 番がそのままドリブルでサイドを突破し、ゴール中央へ走り込んできた 9 番へ絶妙なタイミングでラストパス。パスを受けた 9 番は、そのまま GK の位置をしっかりとみて、冷静にゴール右隅にシュート、ついにエスピーダがコンサ B のゴールをこじあげ勝ち越しゴールを奪う。ここからエスピーダの攻撃にさらに拍車がかかる。6分、味方からパスを受けた 7 番が左サイドでドリブルを仕掛け、バイタルエリア付近で中央から左に流れてきた 9 番にくさびのパス、相手 DF をうまく引きつけ時間をつくり、ゴール中央へ走り込んできた 10 番へ折り返し、そのまま 10 番がダイレクトでシュート。ボールは見事な軌道でゴール左隅に突き刺さり、立て続けにチャンスをつくったエスピーダが追加点。2点ビハインドのコンサ B は、なんとか追いつこうと、左サイドを起点に攻撃を組み立て、エスピーダゴールを目指すも、エスピーダ 6 番、7 番が体を張ったプレーでコンサ B の攻撃をくい止め、なかなかシュートを打たしてもらえず試合終了。エスピーダ旭川が決勝へ進出した。

【文責：苫小牧地区サッカー協会 技術委員会 長谷川大樹、新島啓太】

【編集：苫小牧地区サッカー協会 4種委員会 事務局長 松本 昭】

【写真提供：苫小牧民報社】

【準決勝 A コート】 (釧路コンバット) 2-5 (北海道コンサドーレ札幌 U-12 A)

(1 ペリオド 1-1
2 ペリオド 0-4
3 ペリオド 1-0)

【第 1 ペリオド】

釧路コンバット (以下釧路) は 3-3-1、北海道コンサドーレ札幌 U-12 A (以下コンサ A) は 2-3-2 でキックオフ。開始からコンサ A がピッチを広く使ったパス回しで優位に試合を進める。一方の釧路は、引いて守備の陣形を整えながら、集団で粘り強くカウンターを狙う。

1分にコンサ A が 6 番のドリブル突破からファーストシュートを放つがポストに当たる。左右にボールを振りながら中央の空いたスペースを突いて何度も得点のチャンスを生み出すが、釧路も 10 番を中心にコンパクトな守備から最後の局面で体を張ったプレーもあり、ポストにも救われるなどスコアは動かずに試合が進む。

すると 5分、コンサ A の DF の背後に蹴られたクリアボールを DF が GK へバックパスをしたところ、GK がスルーしてしまい、これに反応した釧路 FW が無人のゴールに流し込み、先制点をあげる。

嫌な失点をしたコンサ A であったが、選手たちは焦ることなく、10 番を起点にパススピードをさらに上げ、釧路の守備を左右に振りながらゴール前に侵入していく。

8分、左サイドからボールを動かし逆サイドへ展開。8 番がタイミング良く前へ持ち出し、右サイドから折り返したクロスをも 6 番がヘディングで合わせて同点。コンサ A が圧倒的にボールを保持しながらシュート数も多かったが、釧路の集中した守備からのカウンターでスコアは動かずに第 1 ペリオド終了。



【第2ピリオド】

両チームともシステムは変わらずに再開。メンバーが入れ替わっても、プレーの精度、強度が落ちないコンサAが開始から攻勢をかけ、13番と9番の2トップがゴール前のワンツースから9番がネットを揺らす、これはオフサイドの判定。その後も13番と9番が裏のスペースに抜け出し、3分に18番からのスループアスに抜け出した13番が左サイドをえぐり、グラウンダーのクロスに9番が体を投げ出してゴールし、逆転に成功する。さらに1分後、またも18番からのスループアスに抜け出した13番がGKとの1対1を冷静にかわして追加点。釧路は第1ピリオドと比べスピードとパワー、戦術理解度が落ちたことで、守備のスライドが遅れ、アプローチとプレスの強度が弱まったことで奪いどころが定まらずに後手に追いかけて回す苦しい展開となり、奪った後もなかなか相手コートに進むことができず、6分に中盤で6番がインターセプトしたボールを持ち込みミドルシュートを放った以外に攻撃の形を作ることができなかった。

その後もコンサAが優位に進めながら追加点を重ねて0-4で第2ピリオドが終了。

ハーフタイム、釧路のベンチからは、「最後まであきらめずに、まず1点を取りに攻撃的にいこう」とチームの士気を高めてピッチに送り出す。対するコンサAのベンチは「引いた相手に対して攻撃の枚数を増やしながら流動的に、連動性を高めよう」とさらに攻撃面での修正を促して第3ピリオドに臨む。

【第3ピリオド】

両チームともシステムの変更はなかったが、第1ピリオド主体のメンバーに戻った釧路が中盤の選手がやや前のポジションを取り、前線から強くプレッシャーをかける。

お互いに第3ピリオドでも球際の激しさとハードワークを惜しまないゲームが続く。

2分、中盤から最終ラインへのバックパスをカットした釧路9番がGKの動きを見ながらコースを突いたシュートを放つが惜しくもポストに当たる。その直後、コンサAの自陣でのスローインをカットした9番が左サイドからドリブルで中央まで持ち込みシュートするが、GKがセーブしゴールならず。コンサAの戦い方は変わらないが、徐々に釧路の選手が対応し始めたことと、パスのスピードが落ちた事で中盤がボールを奪われる回数が増え、カウンターを食らう回数が増える。

5分、釧路の左サイドから15番が裏へ抜け出しGKとの1対1を流し込み、釧路が追い上げる。

コンサAはゲームの半分で選手を全員入れ替える。入れ替わった選手たちが流れを呼び戻そうと積極的に声をかけ合い、アグレッシブなプレーを見せる。9分に釧路9番が中央突破から鋭いミドルシュートを打つがわずかにゴールから逸れる。釧路が最後までゴールを奪おうとファイトするが、試合終了。

コンサAが決勝進出となった。



【文責：苫小牧地区サッカー協会技術委員会 長谷川大樹 新島啓太】

【編集：苫小牧地区サッカー協会 4種委員会 事務局長 松本 昭】

【写真提供：苫小牧民報社】

【決勝】 (北海道コンサドーレ札幌 U-12A) 3-1 (エスピーダ旭川)

1	1	0	0
2	1	0	0
3	0	0	1
延長前半	1	0	
延長後半	1	0	

【第1ペリオド】



北海道コンサドーレ札幌 U-12A (以下コンサ A) は、2-3-2、エスピーダ旭川 (以下エスピーダ) は 2-4-1 のフォーメーションでコンサ A のボールでキックオフ。立ち上がり、コンサ A はこまめにボールを動かし、エスピーダのプレスをかまし、ピッチをワイドに使いながら攻撃を展開する。5分、最初のチャンスはコンサ A。5番の右から左へ大きくかえたサイドチェンジからボールを受けた14番が左サイドをドリブルで仕掛けカットインしてシュートするも惜しくも GK 正面。立て続けにコンサ A が攻撃をしかけ、今度は、6分に10番が中央をドリブルで仕掛け、右サ

イドの6番へスルーパス、そのままシュートするも GK が好セーブでゴールを守る。コンサ A は GK も含めたビルドアップで攻撃を仕掛けていくが、なかなかエスピーダゴールをこじ開けることができない。9分、エスピーダも相手ボールをインターセプトしカウンターを仕掛け、ドリブルで持ち込むが相手 DF の速い寄せになかなかシュートを打たしてもらえない。終始、主導権を握りゲームを進めたコンサ A だったが、エスピーダのゴール前での堅い守りを攻略できず、チャンスはあるが決定機をつくれずに第1ペリオドは0-0で終了。

【第2ペリオド】

第2ペリオドもコンサ A がサイドをワイドに使いボールを動かしながら、主導権を握ったゲーム展開で攻撃を仕掛ける。開始早々の1分、コンサ A の17番が左サイドをドリブルで切り込み、ゴール前に走り込んだ8番へクロスを入れるも、エスピーダ DF 陣に阻まれ、シュートが打てずに終わる。立て続けにチャンツをつくるコンサ A、3分、ペナルティーエリアで15番からくさびのパスを受けた9番が相手 DF を背負いながらターンし抜け出すも、惜しくもシュートは GK 正面。チャンスを多くつくっているコンサ A、しかし、シュートの精度を欠き、なかなか得点に結びつかない状態が続く。そんな中、6分、コンサ A に待望の先制ゴールが生まれる。相手ボールをバスカットした4番が中央のウラのスペースへ走り込んだ9番へ絶妙なスルーパス、そのままシュートを打ち、1度は GK の好セーブにあうが、はじいたこぼれ球を拾った18番が相手 DF を交わしてシュート、見事にゴールネットを揺らし、ついにコンサ A がエスピーダゴールをこじ開けた。このゴールを機にコンサ A がさらに優勢を強め、一方でエスピーダは、コンサ A の速いボール回しにうまくプレスをかけられず、ボールが奪えない厳しい時間帯が続き、第2ペリオドは1-0で終了。



【第3ペリオド】

序盤、両チームともにボールへのアプローチがさらに速くなり、球際も強く、厳しくいき、決勝に相応しい好ゲームが繰り広げられる。2分、コンサ A は、GK からしっかりと組み立て、GK からの左サイドへのロングボールを受

けた18番がドリブルを仕掛け、相手DFを抜きさり、中央の9番へパスをするも、シュートは枠をとられることができず枠外へ。そして、4分、エスピーダのハイプレッシャーがついに実を結び、相手ボールを奪った10番がカウンターを仕掛け、裏のスペースへ抜け出た9番へスルーパス。数少ないチャンスを9番がしっかりと決め、エスピーダが同点に追いつく。ここから、徐々にエスピーダにもチャンスが増える。7分、カウンターからチャンスをつくり、3番からパスを受けた9番が左サイドを駆け上がり、アーリークロスを入れるもペナルティーエリア内の11番には惜しくもあわずボールをロストしてしまう。エスピーダが個人技で勝負するも、対するコンサも粘り強い守備で簡単にはゴールをわらせない。同点となり、チームの持ち味を出し合い、最後まで集中力を保ちながら、お互いに一步も譲らず、第3ピリオドが終了し3分-3分の延長戦へと突入。

【延長前半】

延長前半、コンサAは風上をエンドにとり、エスピーダボールで試合開始。開始早々、両チームともにロングボールを多用するなか、2分、左サイドの18番からの横パスをバイタルエリアで10番が受け、ウラへ飛び出した6番へ左足のアウトサイドでスルーパス。6番がGKとの1対1を制し、落ち着いてゴール右隅に流し込み、ついにコンサAが勝ち越しゴールに成功し延長前半が終了。



【延長後半】

延長後半にはいっても、両チームともに、ボールを失ってからの切り替え、ボールを奪ってからの周囲の関わりがととても早く、残り3分に全力を尽くす。2分、コンサAがエスピーダゴールに攻め込み、右サイドでチャンスをつくり、10番からの低い弾道のクロスがゴール中央のフリーの3番へと繋がりシュートするもボールは枠外へと飛んでいき、追加点とはならず。しかし、終了間際の3分、コンサAの2番が左サイドを突破し、クロス気味に蹴ったボールがそのままゴールへ向かい、GKがファンブルしオウンゴールによりコンサAが追加点。ここで試合終了のホイッスルが鳴り響き、北海道コンサドーレU-12Aが全国大会への切符を手にした。

【文責：苫小牧地区サッカー協会 技術委員会 長谷川大樹、山岸 寛】

【編集：苫小牧地区サッカー協会 4種委員会 事務局長 松本 昭】

【写真提供：苫小牧民報社】